

KFCと尚絅学院大がつくる名取のメディア

ハナモモ通信



【発行】
河北新報普及センター
(KFC)

【協力】
尚絅学院大

【エリア】
名取市内
11,000部

【部署】
教員

【電話】
022(268)2991



パーソナリティーとして市民に声を聞ける相澤さん

東日本大震災の発生後、災害FM放送局として誕生した「なとろじ」は、3月、コミュニティFM放送局「エフエムなとろじ」に移行して情報発信をしています。地域に根差した、声の「回覧板」を目指しています。

なとろじが放送を始めたのは震災発生1か月後の2011年4月10日午前9時、



目指すは声の回覧板

「なとろじ」は、知人を通じて知り、一情報伝えることが今できること」と協力依頼を快諾しました。

高校で放送部に所属していましたが、話すことは慣れていたが、当初は被害の大きさに思いを伝える難しさを感じて苦しんだそうです。

時、3月に災害FMからコミュニティFMに組織を改め、「みんなを元気づける、なとろじの電報」を合言葉に放送を続けています。

「エフエムなとろじ」副理事長で、パーソナリティーを務める相澤美恵さんは震災後、東京のボランティアが災害FMを開局することを

は避難生活を余儀なくされた被災者を訪ねて取材で避難所を訪ねては、一人ひとりの思いや苦悩に耳を傾けました。被災者の気持ちに寄り添うことに心を砕いたのです。すると、放送に聞いた市民から「ありがとう」と声を掛けられるようになりました。

「一人一問わり続けることで私の気持ちも前向きになりました」と相澤さんは振り返ります。

衣、責任に加え、第4のライブラリーとしての「情報」の大切さを震災は教えてくれました。相澤さんは市民から最も近い距離で情報を提供するコミュニティFMこそが、どのメディアよりも視聴者に寄り添うことができると信じています。「自分の気持ちが変わるよう、声に思いを込めています」と相澤さん。「なとろじ」が地域の回覧板になることを願い、今日も仲間たちとともに声を届けています。(阿部香圭)

「エフエムなとろじ」住所は名取市増田字柳田3885。情報提供など連絡先は電話02(268)37801、FAX(393)4571。メールはnatori804@natori.com

チームの垣根を超えて交が8日、相互台東グラウンドで開催されました。市内の小学6年生45人が参加し



勢ぞろいした、名取市少年野球育成会の6年生たち

両親に感謝

チームの垣根を超えて交が8日、相互台東グラウンドで開催されました。市内の小学6年生45人が参加し

ました。大会はこして第14回目を迎えました。育成会の高岡修会長は開会式で、「6年生にとって最後の大会。雨の中だが1試合だけでも試合をしてもらいたい。ケガをしないよう一杯プレーしてください」とあいさつしました。息子の活躍を見守った今内尚子さんは「足のケガなかつた。医者からは「徐々に」と言われたが、最後の大会には出てあげたかった。チームに6年生は3人しかいない中、最後までよくがんばった」と褒めていました。

名取コンドルズの今内智史君は母親に向けて「野球を続けさせてくれてありがとうと言いたい」と感謝の言葉を述べました。那智が「2年生から始めて、徐々にレベルアップできたと思います。お父さんお母さんには、練習や試合のたびにお弁当作りや送迎してもらいたい感謝をしています。中学でも野球を続けたい」と笑顔で話しました。

大会は4チームに分かれたトーナメント形式で実施。決勝は雨天により、じやんけんで勝者を決めるハプニングに見舞われましたが、選手たちは仲間たちとの交流を楽しんだ様子でした。(KFC 轟山)

なとり

歴史散策②

下余田熊野三社

2回目は下余田熊野神社を紹介します。

◇

前回紹介した、高徳熊野三社が勧請(かんじょう)されつつかけとなったのは、(巫女(みこ)名取老女)でした。老女は小さな熊野三社を建ててお参りをしていたと伝わっています。現在も下余田に現存しており、信心深い老女は毎年のように紀州熊野三社(本宮、上玉、那智大社)参りに出かけていたとされています。老女伝説が残る熊野三社はまさに紀州の三社と同じような位置関係に建てられているのです。(地図参照)

下余田の三社はいずれも個人の敷地内にあります。参拝の際はくれぐれもご注意ください。



下余田熊野三社と名取老女の墓の位置



下余田熊野本宮社



下余田熊野那智社



下余田熊野新宮社



高徳熊野三社の位置



名取・小笠原所長

河北新報普及センター(KFCC)の市内販売所の所長紹介。第二回名取販売所の小笠原所長(58)です。(聞き手は 渋谷胡桃)

◇

配達エリアは増田や美田園などの市内を概算する。東北本線の東側全てです。朝刊3,900部を扱っています。社員6人とアルバイト42人で配達します。深流約りでは70匹以上約り上げたことがあります。



住所：増田 7-3-13
連絡先：382-0839

所員が地域の活動に積極的に参加し交流できるように今後努力していきます。地域とのコミュニケーションを大切に、気遣いや、細やかなサービスが出来るよう心掛けていきたいと思っています。

学生スタッフの声

Mニコス紙「ハナモモ通信」は、KFCCと尚綱学院の学生記者が協力して発行しています。取材を通して名取を知り、発行を通して名取を知らせます。地域の皆さんの目線に立って、身近で役立つ情報を提供

た状況は様々です。それでも各自が志高。毎月11,000世帯に情紙を届ける使命を果たします。メンバーの意気込みを紹介しましょう。写真右から順に、
「写真子」取材したことだけでなく、仲間が書いた記事も読者と一緒に楽しみ、大学のある地元を知り尽くしたい。
渋谷胡桃「対人スキルとか文章力を少しでも上げられたらいいな」
阿部杏圭「市民として地元を盛り上げたい。取材を通して良い所を発見し発信します。宜しくお聞いします！」
亀山智美「恥取をあまり知らないのですが、Mニコスの発行を通してたくさん知りたいなと思ってます！」
小山初音「初対面の人と話すとが苦手なので、この企画に参加して克服。自分に磨きをかけてみたいと思います」



メール：hanamomo-kfcc@kahoku-fc.co.jp

プロの記者と比べれば雑拙で、現場に迷惑をおかけするかもしれません。真心こめて筆を尽くす気持ちが同じです。五つの種が芽をだし成長する姿を紙面を通して見守ってください。(松尾子)

「ハナモモ通信」では、皆さんからの意見・ご感想と情報提供をお待ちしております。イベント情報やスポンサー・サークルのメンバー募集など身近な話題をお寄せください。お近所のKFCC販売所でも受け付けております。

☆連絡先☆
河北新報普及センター(住所)
仙台市青葉区五橋 1-1-10
(電話) 266-2691